様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　４月　６日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2008～2011
課題番号：20730514
研究課題名（和文）　美術館と公共性に関する研究－美術館建築による開放性の創出に着目して－
研究課題名（英文）　A Study of the Relationship between Museums and Publicness: Focusing on the Creation of Openness by Museum Architecture

研究代表者
藤澤　まどか（FUJISAWA MADOKA）
早稲田大学・教育・総合科学学術院・講師
研究者番号：90454008

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育学
キーワード：美術館、博物館、社会教育、生涯学習、公共性、開放性、美術館建築、まちづくり

１．研究計画の概要

本研究では、美術館と公共性の関わりについて美術館建築による開放性の創出に着目し、来館者の観点も取り入れながら考察することを目的とする。そこで、様々な人々が利用しやすい雰囲気や社会に開かれた活動を開放性として定義し、美術館の公共性の保障にむけて美術館建築の果たす効果や役割を分析していく。

そのさい、公共性の理論的枠組みの整理等の理論研究を行うとともに、美術館の事例調査を行い、理論と実践を照らし合わせながら考察する。

特に、美術館建築による開放性の創出について分析する具体的な視点として、第１の「美術館内部の空間構成」、第 2 の「美術館内部と外部の交差」、第 3 の「美術館の周辺地域への影響」の三つの観点から考察する。

第１の「美術館内部の空間構成」では、来館者の鑑賞体験と結び付けながら、展示室を含めた内部空間の開放性の生じ方を明らかにする。第 2 の「美術館内部と外部の交差」では、美術館内部と外部の関係や周辺環境の取り入れ方によって生じる開放性について明らかにする。第３の「美術館の周辺地域への影響」では、まちづくりや地域再生に関わることで生み出される開放性について明らかにする。

２．研究の進捗状況

現在、研究課題に沿って、理論と実践の双方の研究を進めている。

(1) 理論研究に関しては、公共性の理論的枠組みについて整理し、美術館活動と公共性の関わりについて開放性に着目しつつ明らかにした。また、公共性と美術館建築の関係について分析する視点として、美術館建築の社会的影響に注目して考察を行った。そして、公共性と美術館建築による開放性との関係を分析する視点として、美術館建築と透明性に注目して考察を行った。

(2) 実践研究を進めるさいの事例調査に関しては、インタビュー等も行い、詳細な実態把握に努めた。

第１の「美術館内部の空間構成」については、フランスのジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター（Centre national d'art et de culture Georges Pompidou）や丸亀市猪熊弦一郎現代美術館等の調査を行った。

第２の「美術館内部と外部の交差」については、アメリカのナッシャー彫刻センター（Nasher Sculpture Center）やフォートワース現代美術館（Modern Art Museum of Fort Worth）、十和田市現代美術館、地中美術館、群馬県立館林美術館等の調査を行った。

第３の「美術館の周辺地域への影響」については、イギリスのテート・モダン（Tate Modern）、イタリアのプンタ・デラ・ドガーナ（Punta della Dogana）や入善町下山芸術の森発電所美術館等の調査を行ったが、第 3 の観点については調査を継続中である。

上記の第 1、第 2、第 3 の観点に沿って研究を進めていく中で、今後も必要に応じて事

例調査を行う予定である。

（3）上記の研究成果については、論文や学会発表の形で公表を行った。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）
理論研究に関しては、研究計画に沿って分析を行うとともに、実践活動と結び付けながら調査研究を行えたからである。これに加えて、調査研究開始時には見出せなかったキーワードも発見できた。
実践研究に関しては、研究計画を基礎として、第 1 の「美術館内部の空間構成」、第 2 の「美術館内部と外部の交差」、第 3 の「美術館の周辺地域への影響」の三つの観点に沿って、事例調査（インタビュー等も含め）を行えたからである。
研究成果に関しては、論文や学会発表の形で公表を行った。

４．今後の研究の推進方策

今後も、前年度までの研究成果を基礎としながら、研究計画に沿って着実に調査研究を進めていく。
特に、理論的な考察を進めるとともに、予定されている事例調査を行い、理論と実践が乖離しないように努めながら、分析していくこととする。
そして、研究成果については、今後も論文や学会発表等の形で公表を行う予定である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

①藤澤まどか「美術館建築と透明性－開放性の創出との関わりから－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 18 号-2、2011 年、pp. 33-42。

②藤澤まどか「美術館内部と外部の相互浸透－周辺環境との連関から－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 18 号-1、2010 年、pp. 225-236。

③藤澤まどか「美術館建築の社会的影響－記憶と継承の観点から－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 17 号-2、2010 年、pp. 59-68。

④藤澤まどか「美術館内部の開放性に関する一考察－空間の知覚に着目して－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 17 号-1、2009 年、pp. 85-96。

⑤藤澤まどか「美術館活動と公共性に関する一考察－開放性に着目して－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 16 号-2、2009 年、pp. 81-91。

⑥藤澤まどか「美術館内部と外部の交差－美術館建築の作用に着目して－」『学術研究－教育学・生涯教育学・初等教育学編－』査読無、第 57 号、2009 年、pp. 7-19。

〔学会発表〕（計 4 件）

①藤澤まどか「美術館とリノベーション－周辺地域への影響を中心に－」関東教育学会、2010 年 10 月 24 日、聖徳大学。

②藤澤まどか「美術館内部と外部の相互浸透－周辺環境との連関から－」関東教育学会、2009 年 11 月 1 日、国士舘大学。

③藤澤まどか「美術館内部と外部の交差－十和田市現代美術館を中心に－」関東教育学会、2008 年 10 月 26 日、早稲田大学。

④藤澤まどか「美術館内部の開放性に関する一考察－公共性の観点から－」日本社会教育学会、2008 年 9 月 20 日、和歌山大学。